

第6回外洋加盟団体長会議 議事録

日時：平成29年1月22日（日）9：30～14：00

場所：岸記念体育館101号会議室

出席者：（理事）

植松副会長、坂谷定生常務、菊池邦仁、宇都光伸、大島茂樹、平松隆、
中澤信夫、

（加盟団体）

津軽海峡会長 荒山雅仁、津軽海峡副会長 石川彰、いわき会長（理事兼）
菊池邦仁、東京湾会長 足立利男、東京湾事務局長 望月規矩雄、
三崎事務局長 中里英一、三浦会長 尾山純一、三浦事務局長 関根照久、
三浦事務局長補佐 北川隆、湘南副会長 作田智恵子、湘南総務委員長
浪川宏、東海会長（理事兼）坂谷定生、近畿北陸会長 高橋利明、
内海事務局長代理 北中育子、西内海事務局長 小山悟、
玄海会長 末松明、南九州会長（理事兼）宇都光伸、

（委員会）

外洋計測委員会委員長 吉田豊、外洋計測委員 川合紀行、
レース委員長 三浦信郎、ルール委員会外洋小委員長 大村雅一、
キールボート強化委員長（理事兼）中澤信夫

（事務局）

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

JSAF事務局次長 寺澤寿一

（オブザーバー）

JSAF外洋ホームページ「オンブリーズ」担当 高槻和宏

（順不同、敬称略） 合計28名

1. 開会挨拶

植松副会長：1年に2回の団体長会議ですが昨日の代表者会議に続き宜しくお願ひします。

レーティングについては、IRCとORCの両方をJSAFでハンドリングしていく。
ジャパンカップ、会員の高齢化等の問題があるが、意思の疎通を図って理解していただきたい。

この場での議題は持ち帰って会員に説明していただきたい。

本日はオブザーバーとして高槻さんが出席している。

議事の進行は坂谷常務にお願いします。

坂谷常務：議事録署名人に尾山さんと菊池さんをお願いしたい。

2. 議事

1) 外洋艇登録規則及び細則の改定について

鈴木：熱海で行われた前回の団体長会議で説明したが、殆どは「JSAF」を「連盟」と置換えて統一性を図った箇所等の変更であるが、その他については旧規則の第5条は削除、第7条、8条の文言をわかり易くして短くした。

別表はその3はすでに施行しているので削除、その4は再交付手数料が無料になったので削除した。以上が改定の主な部分である。

2) JSAF カード式会員証の原則廃止と年会費徴収方法の決済代行への全面移行及び会員管理システム改善について

鈴木：2017年度より、カード式会員証の発行は停止となる。

年会費の徴収方法について、前回のこの会議で出された会員の減少が危惧される等の意見を総務委員会に報告した結果、すでに独自に口座引き落としを実施している団体については、年会費の徴収方法の変更は猶予されることとなった。

宇都：新規申し込みから会費徴収まで2ヶ月かかるということはどういうことか？

寺澤：クレジットカード決済はその場でOKだが、口座振替は入金まで2ヶ月かかる。

作田：JSAFとしてももう少し詳しく説明したほうが良い。

平松：申し込みをしたが入金が確認されていない場合は、「申請中」の扱いで運用している。

足立：振込みの確認が取ればOKとしている。

関根：案内を会員に送って混乱したことがあるので、この案内を会員に送らないでほしい。

鈴木：総務委員会に報告する。

坂谷常務：この問題は鈴木事務局長に一任する。

望月：会費は4月1日にJSAFに納入しなければならないことになっているが、今後はどうか？

坂谷常務：今まで通りである。

3) 艇登録システムソフト追加開発費の負担方法について

坂谷常務：外洋系の意見を聞いてソフトの追加の開発をしており、費用が約50万円かかる。前回の会議で費用について説明したが、負担について決めていなかったのもので、本会議で負担方法を決めたい。

できれば、JSAFで20万円を負担して、残りの30万円を加盟団体に負担してもらいたい。

まずは、各団体への負担について意見を聞きたい。

作田：会員数の割合で負担したらどうか。

植松副会長：会員数は関東の4団体、内海、東海で約80%を占めるので、できればこの6団体に来年度の予算で負担をお願いしたい。

坂谷常務：6団体で5万円ずつ。計30万円をお願いしたい。

東海では、負担することで考えている。

尾山：了解した。

中里：この場で返事はできないので持ち帰る。

足立：検討する。

中里：今後もこのような団体が負担するケースは出てくるか？

坂谷常務：出ると思うのでその場合はお願いしたい。

尾山：ソフト開発の詳細を教えてください。

寺澤：ソフト開発会社から詳細はでていないが、現在の紙媒体をデータベース化する。艇登録証をPDFにする等である。

坂谷常務：内容がわかり次第報告するので確認して頂き、確認ができれば来年3月までにお支払い頂きたい。

4) 全日本レベルレースについて

・ジャパンカップ 2017 について

植松副会長：泊地の問題があったが、現在8月10日、11日、12日、13日で行う予定で進めている。シーボニアから出ている条件が一致しなければ中止となる。

24日に平松さんが打合せをする。

予算は約500万円掛かるが、受益者負担となる。

NROは関東にお願いし、受益者負担なのでボランティアは除き対価が発生する。

平松：当初はシーボニアの受け入れが難しかったので他を当たったが、やはり難しかったので再度シーボニアにお願いした。

植松副会長：本来公示の期限は1月末であるので、公示の延期の案内を出して、2月中旬に公示を出す。

参加艇が10艇に満たなければ中止する。

平松：開催が決まったなら、JSAF 日の丸セーラーのスポンサーになった「ラグジュアリーカード」にスポンサードのお願いをする。

・パールレース

大島：資料の通り、7月27日から30日にかけて行う。ぜひ参加をお願いしたい。

全日本ミドルボート選手権は7月14日から17日に行う。

坂谷常務：資料は予定である。パールはIRCとORCとなっているがまだ確定していない。

ミドルはカテゴリー4、パールはカテゴリー3で行う。

平松：ミドルのスポンサーとして「ラグジュアリーカード」と交渉しても良いか？

坂谷常務：ジャパンカップが決まってから考えたい。

スポンサーをつけるといういろいろと大変であるので、パールは基本的にスポンサーは考えていない。

5) アリランレース及び小笠原レースについて

・アリランレース

末松：1973年から44年間やって23回の歴史があるが今回をもって外洋玄海の主催は中止する。

スタッフが高齢化していることと、韓国側の対応が難しく寸前まで予定が立たないことが主な理由である。

また、福岡の艇は殆ど参加しており、レースとなると制約が多いため、皆さんはクルージングに移行している。

他のヨットクラブが行う可能性もある。

坂谷常務：できれば外洋の団体でやって欲しい。

・小笠原レース

中里：小笠原レースは当初5月1日のスタート予定だったが事情により、2日のスタートとなった。

ポスターの掲示の協力を皆さんにお願いしたい。

小笠原返還50周年のイベントとして開催する。

参加艇は10艇を見込んでいる。

今回はイエローブリックではなく、新しいトラッキングシステムを導入する。

イエローブリックに比べて経費が安い。

結果がよければ、将来買い取って他の団体でも使えるようにすることも考えている。

平松：ドキュメンタリー番組の話を知っているが。

中里：現在ため撮りをしているようであるが、どのようになるか詳細はわからない。

大島：トラッキングシステムの内容は？

中里：セッティングの時の電源の問題があるので外部電源ではなく、バッテリー方式である。

レース本部から発報の間隔を変えられるようになっている。

・全日本ミニトンレース

高橋：ミニトンの全日本大会を9月27日、28日、29日の3日間琵琶湖で行う。

6) 今後の外洋艇計測について

吉田：外洋計測委員会の全体の状況について説明するがまず、IRCについては川合

委員長から説明をしてもらう。

川合：IRCは導入して10年がたった。

組織内の人材も質が高く、高いレベルで機能している。

問題点はここ毎年5%ほどのペースで証書発行枚数が減少していることである。

証書の発行は2013年が409枚であったが、2016年は348枚となった。

吉田：IRC委員会は運用のレベルが高い。

中国、韓国、ロシアなど日本の周辺国では計測というものがきちんと運用ができないので、日本に対してのRORCやORCからの信頼も高い。

ORCの現状はこの1年間、人員の確保、組織の構築、必要機材の購入計測にかかわる人員の再教育や計測講習会を開催している。

RMPのソフトは使い易いが長年放置してきたので、ソフトを改修している。

収支は、約150万円の赤字となっており、来年度も100万円の赤字予算を提出した。

収支のバランスをとるため、発行枚数を増やすために海外の証書の発行を日本で行うことも考えているが相手国のNAと打合せが必要であり、時間が掛かる。

IRC、ORCとも将来的には高齢化のため減っていくことが予想され、証書発行枚数や計測委員会に協力する人たちも減少すると予想される。IRCとORCは業務的に重複するところがあるので、証書の発行やHPの製作など、統合できるところは経費の圧縮のために統合していく必要があると考えている。

今月、これらを検討するための「検討グループ」でこれらを検討した。

- ① 計測はディンギーもクルーザーも一緒なのでディンギーも含めて統合する意見が出され、2020年をめどに検討を進めることになった。
- ② 計測委員会の事務については証書の発行事務に関して、受付と証書発行を統合する。
- ③ 当面はIRCを日本のメインレーティングシステムとする。
- ④ レースをする場合にはORCの所持艇はIRCとのデュアルスコアリングを推奨する。
- ⑤ 計測委員会は2つのHPを持っているので、新たに統合したHPを製作する。
- ⑥ ORCの赤字補填を植松副会長にお願いし、2年後は独自で収支のバランスが取れるようにする。

今期はORCiの計測を4艇おこなった。計測費用の質問が前回の加盟団体長会議であったが、計測箇所の多さや計測がミリで行わなくてはならないので、おおよそIRCエンドーストの計測の1.5倍程度の労力が見込まれる。

ハル計測は3Dレーザーで計測をすれば約20万円掛かる。レーザー計測は個別の業者に頼むので、費用が高い。デザイナーからデータを入手できれば、オフセットファイルは作成できるので、この費用は不要となる。

計測ポイントも 従前に比べれば、少なくなっている。機材も購入したので従前よりは簡単になっている。最近のORCの計測作業は職人的な要素を排除する運用の仕方に移ってきている。

中里：レーザー計測とハルのデザインデータは誤差があると思うが。

吉田：最近はコンピューターで木型の切り出し等をしているので 実際上の精度は高いと思う。

7) アメリカズカップ福岡大会について

植松副会長：観客は初日の土曜日が約7,000人、日曜日が8,000人であった。ACボートはわれわれがここで議論しているヨットとは違う。

「観ていて楽しい」ということを主眼においている。

ルイビトンカップの本戦は3月からバーミューダでおこなわれ、そこで挑戦者が決り6月にACがおこなわれる。

挑戦艇は最終的に、ランドローバーかソフトバンクになる確立が高い、との予想もある。

18歳～25歳のユースチームのレースは日本からも参加し、12チームでおこなう。

高槻：JSAFのHPのオンブリーズを担当している。

皆さんのHPを週に一回チェックして載せている。

ACは面白くなりそうと感じている。

8) 外洋専門委員会合同会議について

三浦：各加盟団体から合同会議に参加いただきありがとうございます。

今回は55名の参加の予定。

各加盟団体からレース委員会に参加して頂ければありがたい。

若い人に興味を持ってもらう会議にしたいと思っている。

9) ライフジャケット着用義務化その後の状況について

大村：前回の熱海の会議では11月中に結果が出ると報告したが、現段階では進捗がない。2017年度から施行される可能性が高いと考える。

ライフジャケットが不要ということではなく、サクラマーク以外の世界標準のジャケットでおこなうということなので、誤解のないようお願いしたい。

方針が出次第連絡をする。

小山：ライジャケは固定式かインフレーターブルか？

大村：どちらでも良い

小山：インフレーターブルの定期的な点検が義務付けられるか？

大村：今のところ不明。

川合：SRでは点検が義務であるが、何年に1回ということは規則にない。

坂谷常務：自己責任が外洋の世界と思う。

1 0) 2020年東京オリンピック、パラリンピック応援企画について

大村：詳細は決まっていないが、参考資料のような提案をしたい。

フラッグのリレーを行い、コースは海で難しいところは陸路でも良いと思う。

地域の団体で調整してお金をかけずにおこなったらどうか。

2002年に実施したことがある。

坂谷常務：この提案に対して反対する団体はあるか？

宇都：フラッグの価値をどのように考えるか？

坂谷常務：それもこれからである。提案があればJSAFにもオリンピック組織委員会にも提案する。

植松副会長：皆さんの負担になることなので、やるかどうか皆さんの意見を聞きたい。

坂谷常務：費用の件はJSAFの準備委員会と交渉する。

ここで賛同を頂いたなら、企画を詰めるが如何か？

反対意見がないようなので進めさせて頂く。

坂谷：ここで休憩に入る。1時間の休憩をとり、12:30分より開始する。

1 1) 専門委員会からのその他の報告事項について

・国際小委員会

吉田：鈴木一行委員長が所要で欠席のため、代わりに報告する。

ワールドセイリングの総会で、ORCにORC普及のためにカップ寄贈の要望をしたところ、4つのカップが寄贈された。

IRCのマイクアーウィンが定年となった。

ユニバーサルメジャメントシステムを検討している。

IRCの証書の発行数は2012年が8,744、2015年では6,475で25%の減となっている。

日本は世界で7位の発行数である。

ORCは2016年10月末で9,809、日本では56となっている。

・ルール外洋小委員会

大村：RRS2017-2020の主な改正点を資料に纏めた。

外洋では航路権に関して大きくは変わっていない、講義のかけ声は「プロテスト」のみ、テクニカル委員会の役割が規則化、「支援者」もRRSの対象に、準備信号に「U旗」が追加等である。

合同委員会で講習会をおこなうので参加して頂きたい。

・レース小委員会

三浦：委員長が亡くなり、組織が機能していない。

外洋系のレースオフィサーについて2月に方針が出て、「オフショアーレースオフィサー」の名称になる予定。

大会が少ないのでNROの人数は増えない予定。

NROの講習会の約70%がオリンピックに関してのことなので、外洋系は「オフショアーレースオフィサー」の資格のほうが良いと思う。

小山：年齢の制限はあるか？

三浦：ない。

1 2) 次回の外洋加盟団体長会議の開催について

坂谷常務：来年度の会議の予定は資料の通り、次回は9月30日の予定。

受け入れてもらえる団体はありますか？ なければ南九州で如何か？

宇都：受け入れても良い。場所は指宿が良いと思う。

作田：霧島が良いと思う。

宇都：霧島でも良い。

坂谷常務：霧島で検討してもらいたい。

1 3) 外洋加盟団体からの連絡・アピール・近況報告など

坂谷常務：無線局加入の更新について、三浦の尾山会長より説明を頂く。

尾山：海岸局が減っていく状況で、関東4団体は事務局を置いて運用している。

関根：無線局の更新が、JSAFの加入登録証を添付しなくても更新手続きがおこなえることがわかった。

尾山：すりぬけを許すと、無線局の維持費用負担にも影響が出るので、総務省に働きかけをして欲しい。

坂谷常務：書類を提出するだけでは効果がないと思うので、訪問して確認をする。

足立：海岸局運用の固定的費用をJSAFで負担することを含めて、運用規定の見直しが必要ではないか？

坂谷常務：これは以前この会議で決定して現在のように加盟団体負担となった。

作田：来年度JSAFのカードが発行しなくなるので、希望する加盟団体が共同でカードを作成することを計画している。費用は片面で約100円、両面で200円から250円くらいの予定。希望する団体があれば連絡をしてもらいたい。

1 4) その他

鈴木：国際大会のレースの入賞者に対する表彰について、レース参加者全員を表彰の

対象とするが、副賞については費用の関係で全員ではなくても良いのではないかとの意見が総務委員会が出た。皆さんに意見を聞きたい。

菊池：1艇に2個でも良いのでは？

植松副会長：インビテーションナルカップでも副賞は1個であった。

クルーザーの場合ディングーと違いクルーの人数が多いので、全員に配ると費用が掛かる、1個でよいと思う。

これに対し全員が賛成したので、結果を総務委員会に報告することにする。

高槻：HPに対して要望があれば伺いたい。

平松：ジャパンカップの過去の写真が載っていない。

高槻：削除はしていないが主催者とリンクさせているのでその辺の問題かもしれない。

植松副会長：遠いところの団体の活動取材してHPに載せて欲しい。

2年に1回程度は全部の団体が載るようにして欲しい。

以上。

議事録署名人 尾山 純一
菊池 邦仁